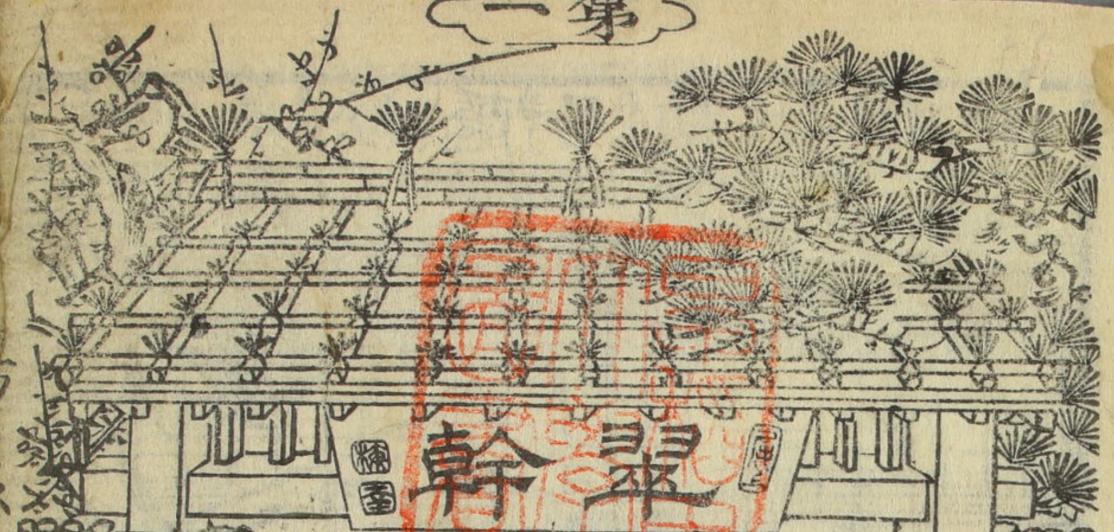




^ 13  
3885





翠幹

高き下し梅千樹 癸未孟春

壬午は春陽ののち梅乃んそ五度亭とて西平月  
梅を向島に遊ぶ其時この松の蔭に訪ひ多し  
宴を聞く庭の松の花より騰じて池水に影を映し  
梅を愛するから梅も如才なる錦耕堂主人の巻に  
物にそふ我あう受て時を促して全部の稿は  
原より麻糸あつて筆乃運びも彼にを懸け  
系接縁のからぬ趣向のあれはるるの清く  
梅の陰居おたむ 花笠文京題

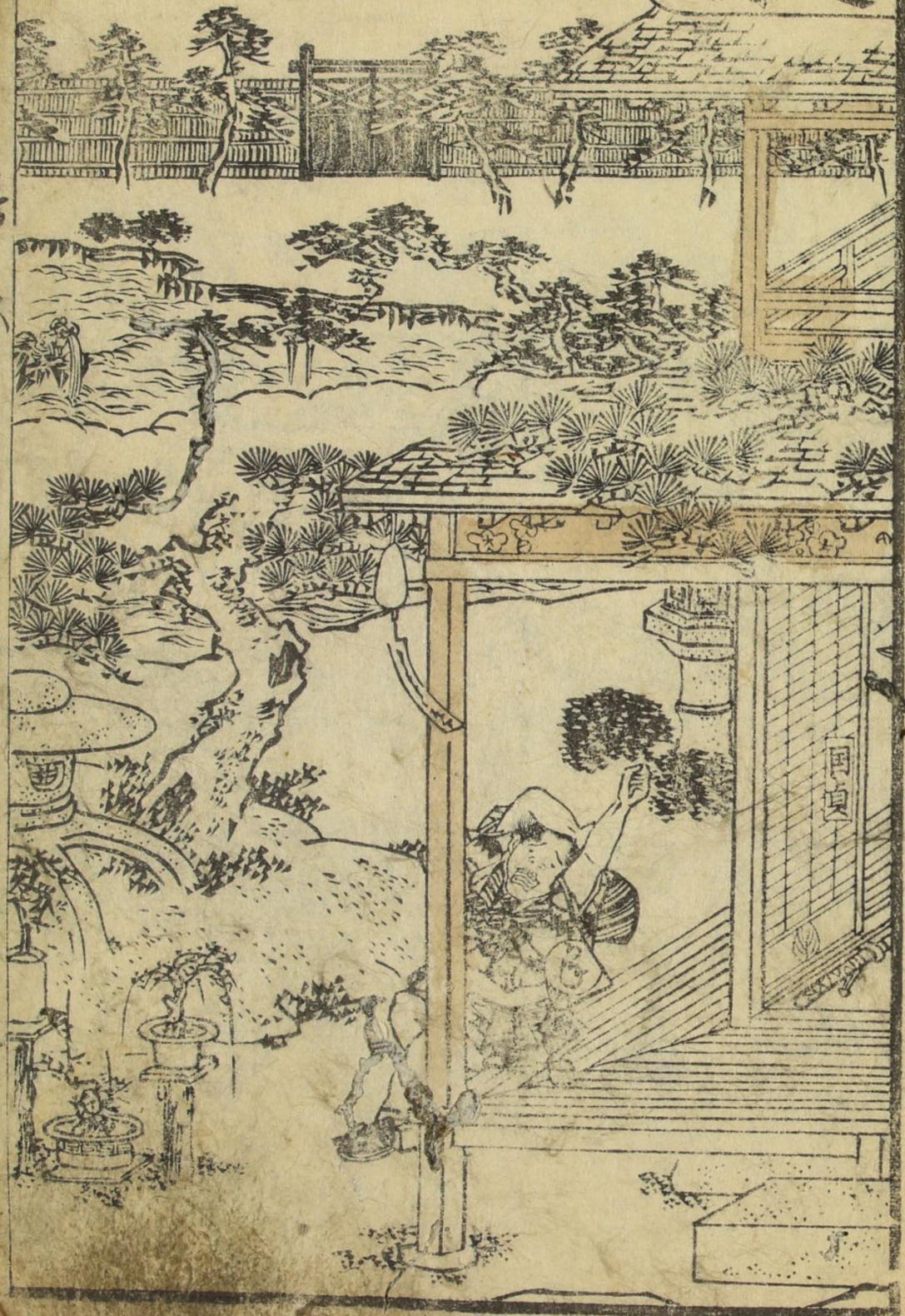
家在花裡不知香

肥田 3885 卷

尾上梅亭  
結句  
縁色  
金録  
山は也  
錦耕堂  
板

肥田 二丁目地蔵

之圖



寺島松隱居梅幸別荘





鳥取 幻名 白井 御祭小清左七  
 因幡之助  
 家来白井兵左門の梓権八  
 人と成て盗賊の首領踊込の  
 名人故異名とを祭小僧と  
 する左の腕ふ七の瘻の  
 石川五右衛門の  
 左七まの元  
 私欲の盗人に  
 のび管家の  
 正筆八重梅の



色紙詮義の爲  
 仮に三浦屋の  
 若者とのり  
 世と忍ぶ  
 縮糸屋弥市女房  
 お房が妹と  
 幻名別名  
 三浦屋の小紫と眞実憂と  
 語りぬ姉妹と名と呼  
 かりし中あれと意乃  
 意氣地み心の念とばはるハ  
 麻の音也



白糸乃下...  
 小紫新造小糸

身にのぞく  
何にか  
思ふ  
うは  
せむ  
あつ  
人の  
あつ

本庄綱五郎

本庄綱五郎

二月寺の  
寺西閑心とのみ



親の邪と  
うけのき  
心さな  
あけ  
遂に本望  
とせむ  
非と  
出家  
て

兄ハ幡隨長兵衛  
姉ハお時  
西人の  
片名  
異  
幡時  
九郎兵衛  
本庄  
庄助大夫が家来  
八内と云く者也

幡時九郎兵衛

綱五郎  
本庄助大夫  
権八の父と討  
非人小身と云く敵と





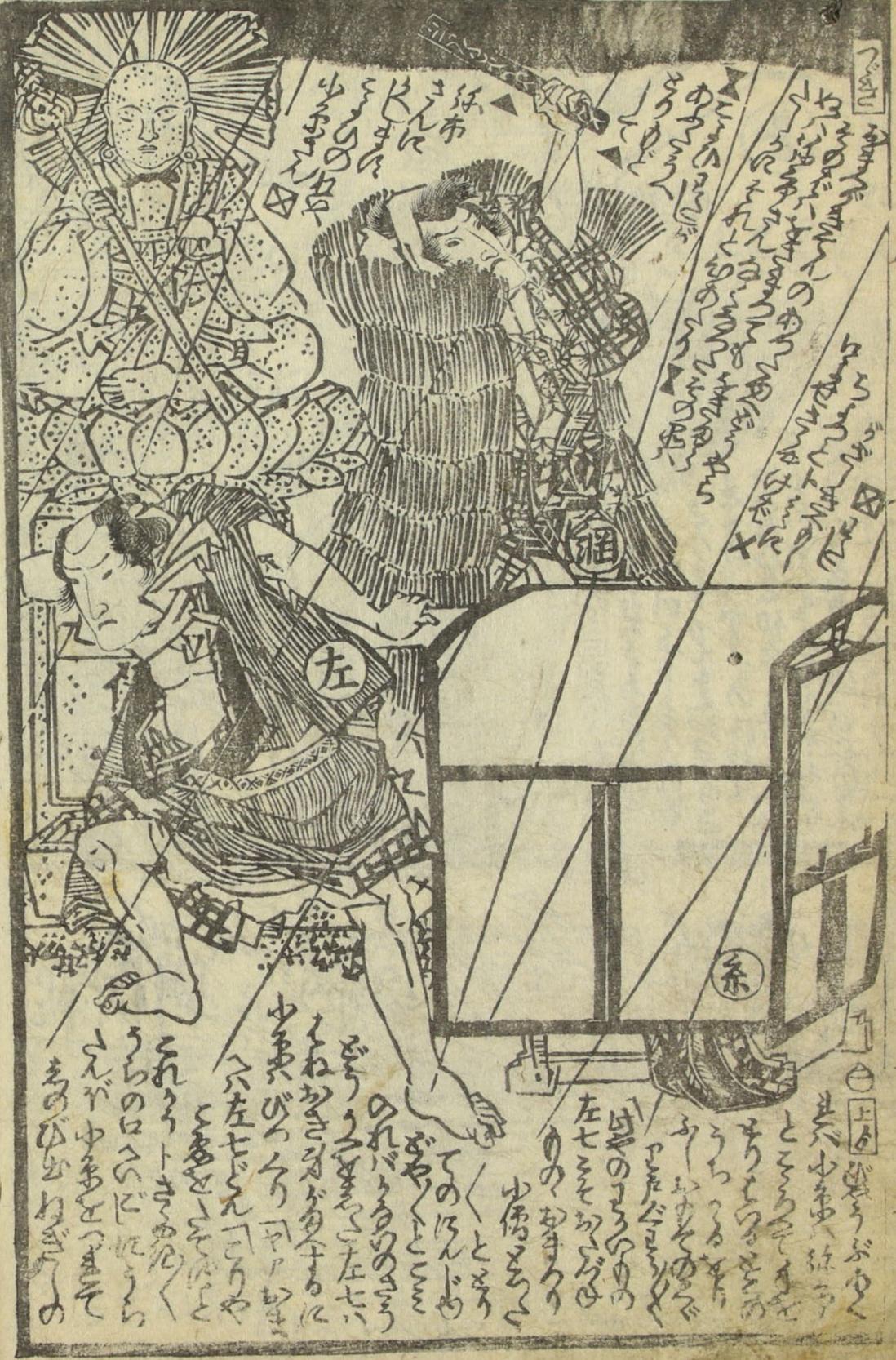














Handwritten text in a cursive style, likely a letter or a scene description, located at the top of the right page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left.



Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the right page. It appears to be a continuation of the text from the top or a separate section.

Handwritten text in a cursive style, located at the top of the left page. The text is arranged in vertical columns, reading from right to left.



Handwritten text in a cursive style, located at the bottom of the left page. It appears to be a continuation of the text from the top or a separate section.







えんののり  
縁色糸  
後編  
お房小糸  
ものひらき

尾上梅幸作  
歌川貞画

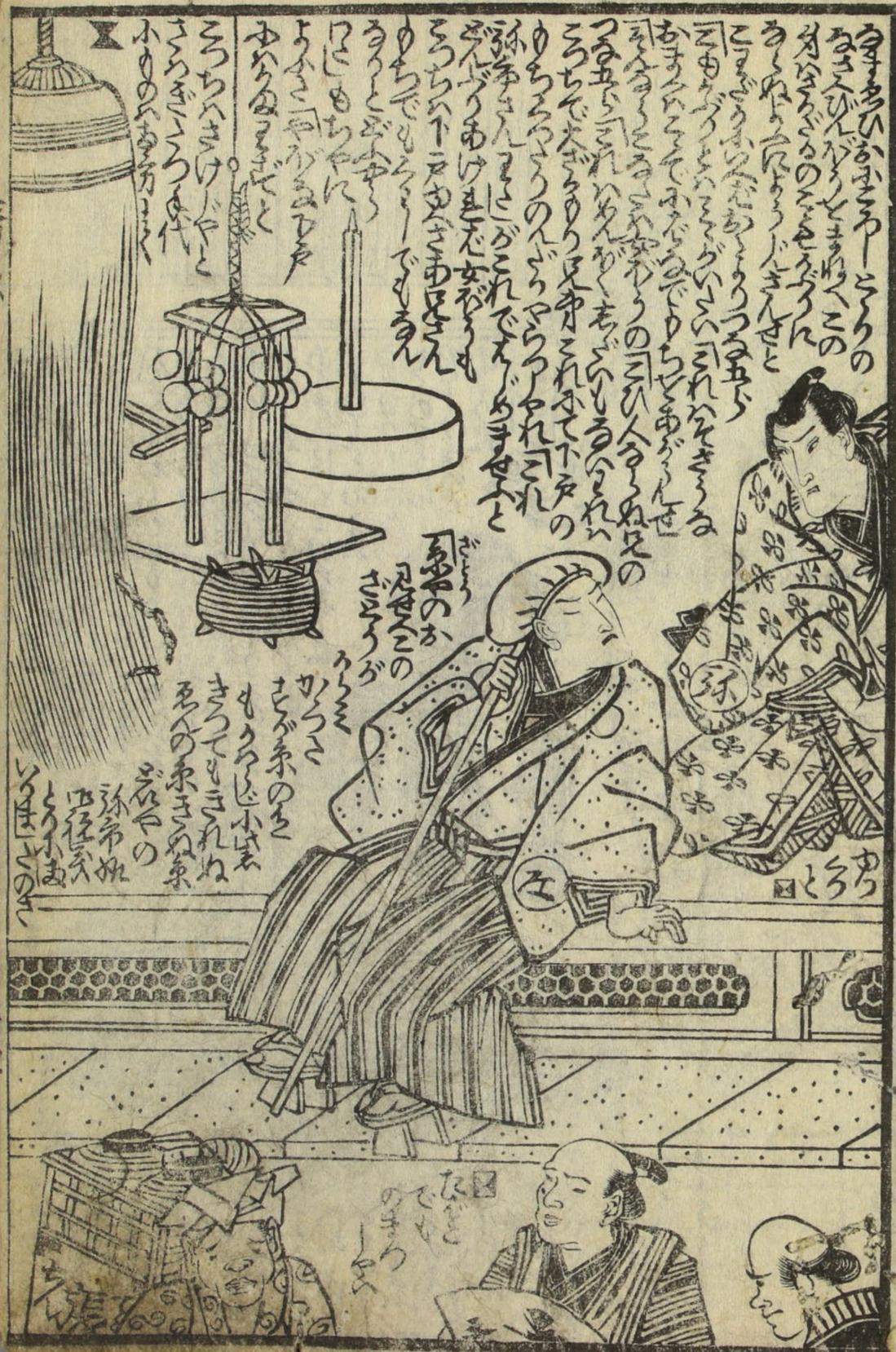
文政癸未  
錦耕堂板

結系

本張り

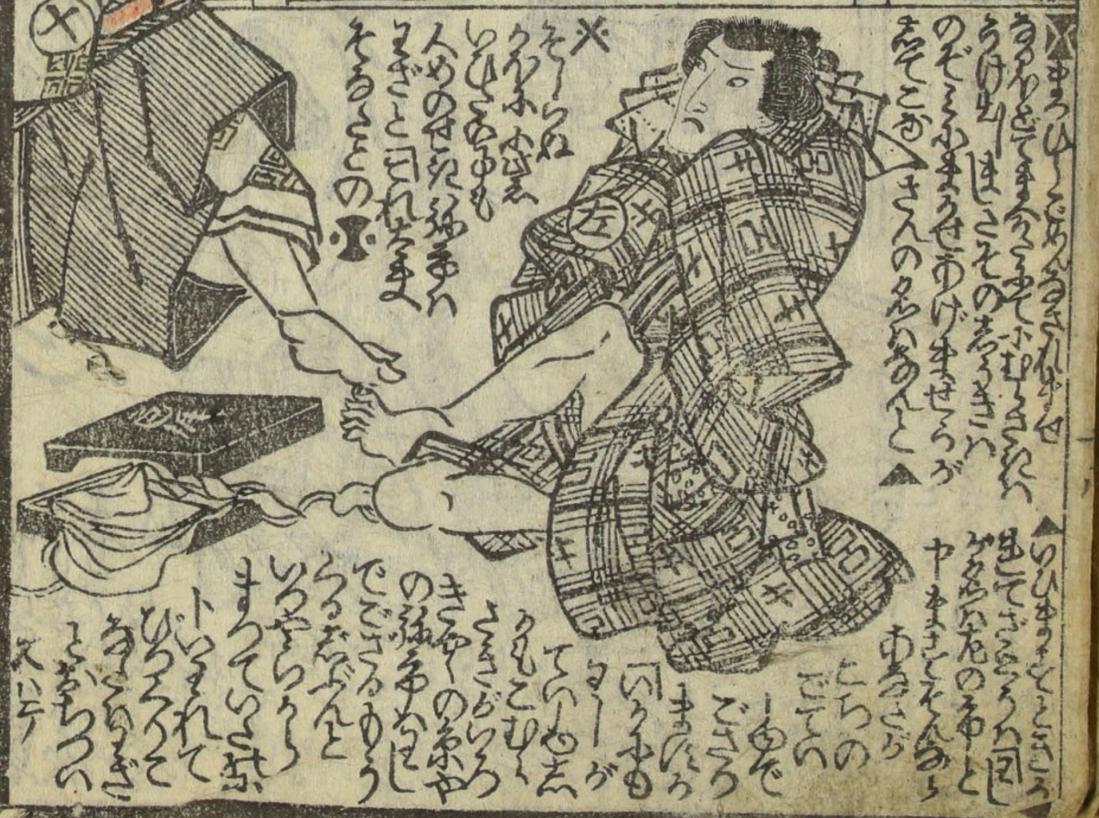
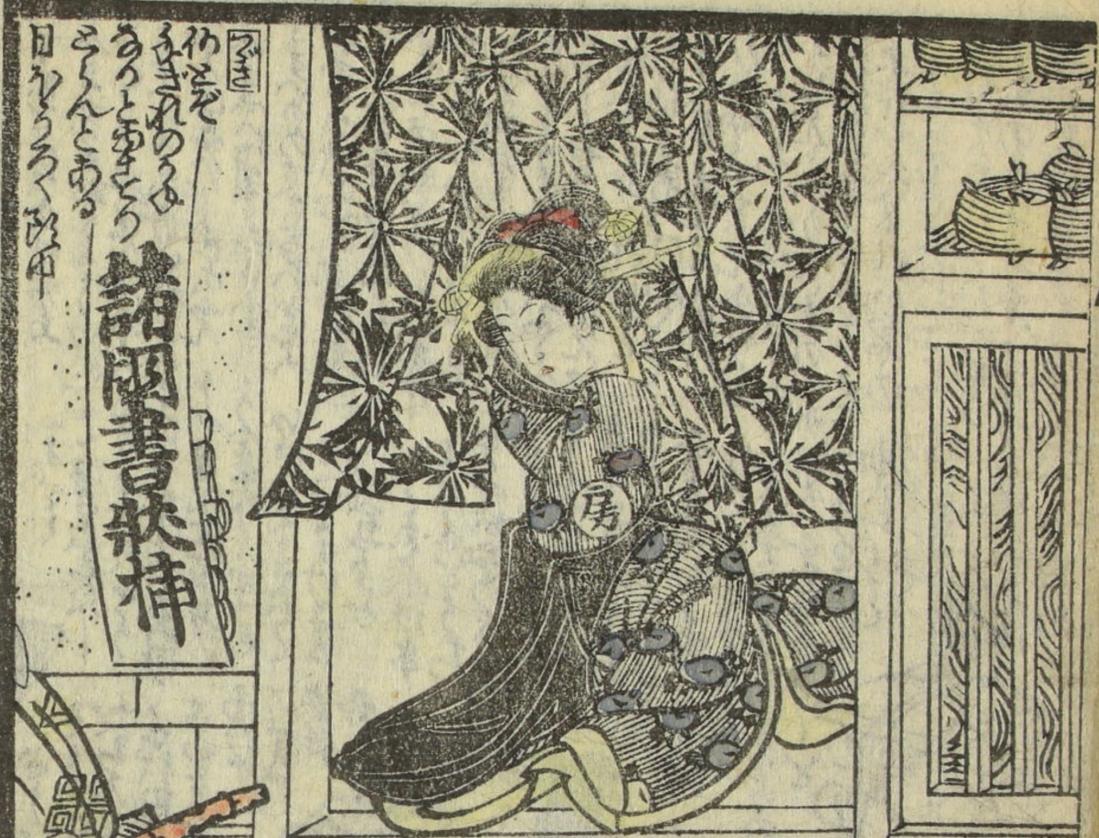
結系問屋

本町二丁目  
結屋彌市





初まぞ  
 むきれのの  
 ろんとあまら  
 ろんとあまら  
 日むらうく改甲



初まぞ  
 むきれのの  
 ろんとあまら  
 ろんとあまら  
 日むらうく改甲

初まぞ  
 むきれのの  
 ろんとあまら  
 ろんとあまら  
 日むらうく改甲



五幕



Vertical text columns on the left side of the page, written in a cursive style.

Vertical text columns at the bottom of the page, continuing the narrative.



Vertical text columns at the top of the page, written in a cursive style.

Vertical text columns at the bottom of the page, continuing the narrative.







此の物語は、昔の事だといふが、  
 今でも、人々の心を打つてゐる。  
 其の故は、其の情の深き故に  
 あり。其の情の深きは、其の  
 人の情の深き故にあり。其の  
 人の情の深きは、其の人の情の  
 深き故にあり。其の人の情の  
 深きは、其の人の情の深き故に  
 あり。其の人の情の深きは、  
 其の人の情の深き故にあり。



此の物語は、昔の事だといふが、  
 今でも、人々の心を打つてゐる。  
 其の故は、其の情の深き故に  
 あり。其の情の深きは、其の  
 人の情の深き故にあり。其の  
 人の情の深きは、其の人の情の  
 深き故にあり。其の人の情の  
 深きは、其の人の情の深き故に  
 あり。其の人の情の深きは、  
 其の人の情の深き故にあり。

此の物語は、昔の事だといふが、  
 今でも、人々の心を打つてゐる。  
 其の故は、其の情の深き故に  
 あり。其の情の深きは、其の  
 人の情の深き故にあり。其の  
 人の情の深きは、其の人の情の  
 深き故にあり。其の人の情の  
 深きは、其の人の情の深き故に  
 あり。其の人の情の深きは、  
 其の人の情の深き故にあり。



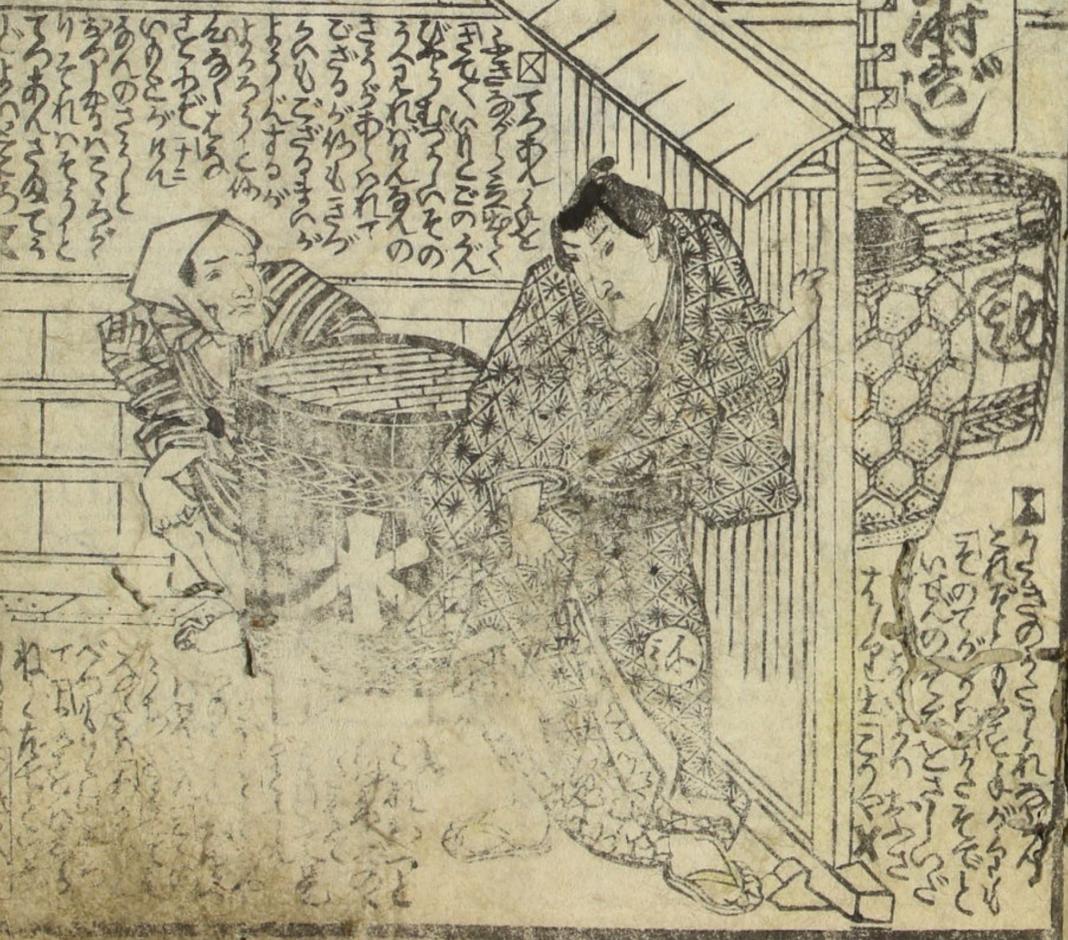
此の物語は、昔の事だといふが、  
 今でも、人々の心を打つてゐる。  
 其の故は、其の情の深き故に  
 あり。其の情の深きは、其の  
 人の情の深き故にあり。其の  
 人の情の深きは、其の人の情の  
 深き故にあり。其の人の情の  
 深きは、其の人の情の深き故に  
 あり。其の人の情の深きは、  
 其の人の情の深き故にあり。





ついでに... 宇治の... 宇治の...

宇治の... 宇治の... 宇治の...



宇治の... 宇治の... 宇治の...



宇治の... 宇治の... 宇治の...

宇治の... 宇治の... 宇治の...



宇治の... 宇治の... 宇治の...







Red vertical calligraphy on the left page, likely a title or commentary. The characters are highly stylized and difficult to decipher, but appear to be written in a cursive style. A black vertical stroke is visible at the top left of the calligraphy.

Small black characters at the bottom left of the left page, possibly a date or signature.



欽川國貞  
扇画



扇舎梅亭  
A red square seal impression is located below the text '扇舎梅亭'.

Small black characters at the bottom of the right page, likely a date or signature.

